

ビジョン 2027

－海洋の未来を拓くために－

東京海洋大学長
竹内俊郎

はじめに

東京海洋大学は 2003 年 10 月、東京商船大学と東京水産大学が統合して誕生した、海洋・海事・水産分野の教育・研究を担うわが国唯一の海洋系総合大学である。両大学の前身は、ともに 100 年を超える長い歴史を持ち、本学はその伝統と個性・特徴を継承するとともに、時代の要請に応じて、新たな教育研究分野への展開を図り、有為な人材を世に送り出してきた。今般、統合により海洋に関する総合的な「科学と技術(Science and Technology)」の大学として生まれ変わった。

我が国の海洋基本法は、「海洋の平和的かつ積極的な開発・利用と海洋環境の保全との調和を図る新たな海洋国家の実現を目指す」としている。今日、アジア・太平洋地域においては法に基づく海洋秩序の確立が求められ、また東日本大震災を踏まえたエネルギー戦略の見直しの過程で、海洋エネルギー・鉱物資源開発等への期待が高まっている。このような中で本学は、海洋国家としての日本にとって益々重要となる海洋に関する学術諸分野の教育・研究の拠点となり、その水準と独創性を持って国内外で高い評価を受ける大学へと進化発展し、明日の海洋分野を担い新たな産業を創造する人材を育成しなければならない。海洋の未来を拓くトップランナーとしてその実現を図るため、中長期的な方向性の共有を目指した「ビジョン 2027－海洋の未来を拓くために－」を策定したものである。

教育

国際的な基準を満たす質の高い教育を保証するカリキュラムを組み立て、海洋分野で世界をリードする独創的な教育プログラムの構築を図るとともに、国内外の海洋関連機関との連携を行いながら、世界最高水準の教育を実施し、産官学のリーダーを輩出する。

研究

科学技術の未来像を海洋分野で具現化する中心を担いつつ、海洋・海事・水産各分野におけるトップクラスの研究および産業界と緊密に連携した実学重視の研究を行う。

国際化

海事・水産分野が我が国の近代化過程において最先端の国際性を有してきた伝統に立脚し、グローバル時代にふさわしい国際性豊かなキャンパスを創造する。

社会・地域連携

本学における教育・研究の成果をもって、我が国および世界の地域社会や海洋関連産業界との連携を強化し、諸課題の解決や産業振興に貢献する。

管理・運営

学長のリーダーシップの下、効率的・合理的な管理・運営が行われるユニバーシティ・ガバナンスを実現する。また、多様な外部研究資金はもちろん、新しい時代の国立大学法人にふさわしい多様な資金を確保し、無駄のない財務運営を通して、学生の勉学や課外活動等に十分な施設と環境を整備する。一方、教職員に対しては、教育・研究・社会貢献・管理運営に邁進できるよう、業績評価と能力評価、並びにそれらを適切に反映する給与体系を構築する。

(平成 27(2015)年 4 月 3 日骨子公表)

(平成 27(2015)年 10 月 14 日公表)